

## 講 義 要 綱

|    |       |    |   |     |       |     |       |     |      |
|----|-------|----|---|-----|-------|-----|-------|-----|------|
| 科目 | 文化人類学 | 単位 | 1 | 時間数 | 30 時間 | 開講期 | 1 年後期 | 担当者 | 服部慶巨 |
|----|-------|----|---|-----|-------|-----|-------|-----|------|

|            |   |
|------------|---|
| 講義の目標および概要 | <p>現代は「価値の多様化」の時代である。医療現場でも様々な環境・経験・価値観を持った患者に対応する知識や技術が必要になる。当然、国際的な視野が求められることになる。</p> <p>そこで、まず我々「人間」がどのような存在であるかを確認し、日本および日本以外の文化と交流を理解するための概念・理論・キーワードを紹介し、具体的な事例と共に理解を深め、併せて自分自身を見つめ直すきっかけを与えたい。</p> <p>また、必要に応じて他の学問（社会学、倫理学、Death Education など）の知識をふまえて解説する。</p> |
| 講義項目       | <p>1．講義ガイダンス</p> <p>2．状況（情況）判断</p> <p>3～5．社会的動物としての人間</p> <p>6～8．文化（culture）とは何か？</p> <p>9．「愛」の比較</p> <p>10～11．国際化と文化変容</p> <p>12～14．日本（人）と文化</p> <p>15．終講試験</p>  |
| 評価方法       | <p>終講試験（70％） 受講態度（20％） レポート類（10％）で評価する予定。</p> <p>なお、終講試験を受けるためには、全講義回数の3分の2以上の出席が原則必要となる。</p>   |
| 受講生への要望    | <p>截拳道の創始者とされるブルース・リーは、「Don't think. Feel!!」（考えるな。感じるのだ!）という名言を残している。この講義も、そのような感覚で「参加」してほしい。</p> <p>また、文化人類学は机上の学問ではないので、「出席」よりも「参加」が期待される。</p>  |
| テキスト       | 『補強版ストレス・スパイラル』服部慶巨 人間の科学社  |
| 参考文献       | 講義中に指示する。   |